

KUWV**Kanazawa University
Wandervogel-OB****白山・南竜 PW
2018 年夏**

俺たちや 10年間 通い続けたよ 靈峰自山に



第 10 回 白山・南竜 PW 2018 年 8 月 2 日 中宮温泉 くろゆり荘

酔っ払いが決めた企画

白山南竜 PW のきっかけは、2008 年 9 月 14 日 KUWV・OB 総会の二次会で、山村さんが白山南竜ケビン集合を提案したことだった。

酔っ払い集団であったから、簡単に勢いよく満場一致で決定。

10 年間継続のエンジン役は

この 10 年間の PW のリード役は、最

初の 5 年間は山村幹事長、その後の 4 年間は伊藤幹事長、そして今年は山村・伊藤両氏の共同幹事長だ。

俺たちは大いに楽しめた

白山南竜 PW に集まつたのは、『紅顔の美少年』の面影も感じられない高齢者軍団。『登れば仲間に会える』との一念で、風雨にも酷暑にも負けず白山へ。楽しく充実の 10 年だった。

(前列左から)

藤井 信晴(8 期)

村田 泰恵(7 期)

合 津 尚(6 期)

高水間淑子(8 期)

山村 嘉一(8 期)

鍋 島 武(9 期)

伊豫 欣二(8 期)

(二列目左から)

篠島 益夫(8 期)

野村 孝弘(8 期)

山中 重夫(9 期)

黒崎 史平(8 期)

穴田 昭一(8 期)

伊藤 俊成(9 期)

白井 勇(9 期)

(三列目)

保 田 敦(9 期)

2018 年(第 10 回) 行動概要 (今年の集中地は 2 か所)

	南竜集中グループ	中宮温泉集中グループ
7 月 31 日	別当出合から砂防新道経由で南竜へ 6 名	白山麓民族資料館等見学 中宮温泉に集合 7 名
8 月 1 日	①展望コースから御前峰へ ②エコーラインで室堂へ ③別当出合へ直行 6 名全員が下山し、中宮温泉に合流	・蛇谷ハイキング 姥が滝 ふくべの大滝など ・新たな参加者 ・南竜からの下山者 合計 15 名
2 日	中宮温泉 くろゆり荘にて解散	

第10回PWの集中地は 南竜と中宮の2ヶ所

第9回までの形式では、各人がどこから登っても構わないが、白山・南竜に集まつくる方式(白山・南竜集中)を採用していた。

第10回の今年は、①白山・南竜と②中宮温泉の2ヶ所に集中地を設定。

山村リーダーによれば、『各人の年齢や体調などを配慮して2ヶ所に設

定すれば、一人でも多くの仲間が参加しやすくなるのでは』…というネライのこと。

ネライは大当たり。白山・南竜組は6名。南竜には寄らず中宮温泉にのみの集中者は9名。2泊目は南竜組も中宮温泉に集まり、総勢15名の大盛り上がりのワングル談義だ。

自称『精銳組』の南竜グループ 砂防新道を往く

南竜組 初日 3つのグループに分かれて、別当出合を出発し、砂防新道を経て、南竜山荘に向かう。

第1グループ 7時30分発 伊豫の単独行。

出発も早ければ、足も速い。南竜到着後に、後続を迎えて甚之助小屋まで下りてきた。現役並みの足腰。

第2グループ 8時30分発 白井、伊藤、鍋島の9期グループ

『ゆっくりが、モットー』。でも後続には甚之助までには追い付かれたくない。年齢相応のプライドだ。

第3グループ 9時30分発 合津、山中の二人は東京から同行。それ故チームワーク抜群で快調。甚之助で、9期組に追いついた。健脚だね。



『精銳組』といふ高齢者 バテたよ

写真上:8時30分 別当出合
写真下:13時50分 南竜道分岐
別当出合での写真(上)では、『久しぶりの山だが、歩けるかな』とちょっぴり不安感も。

『とにかくゆっくり歩こう』

『休憩も頻繁に』と、山の初心者以上に慎重な足取りだ。

それでも5時間も歩けば疲労感もでて、当然ですね(下の写真)。

あと30分歩けば、南竜山荘に到着だ。何とかなるだろう。



My Wandervogel

現在78歳。80歳を過ぎてもひたすら山歩きを続けたい。またフルマラソンと田舎での生活も維持したい。

6期 合津 尚



My Wandervogel

80歳まで山の花を楽しみたい。

8期 伊豫欣二



My Wandervogel

『俺、この稜線が好きなんだ。北岳と間ノ岳を結ぶ稜線。実に爽快な気分になるよ。今秋で80歳になるが、再び来られて幸せ者だ(2024年夏)』…という紀行文を6年後に書きたい。

9期 鍋島武





老体に鞭打ち、花に励まして、一步一歩上へ。「お！ きれいだ」と、パチリと一枚。
「その花、上にいっぱい咲いているよ」と言って横を通りすぎる中年野郎。
『道あけろ』と言いたげ…馬鹿野郎！
花で元気づき、お前の一言でがっくり。山登りはつらいね。

今年もやってきましたよ 白山・南竜に。 来年は……



第 10 回 白山・南竜 PW 2018 年 7 月 31 日 南竜山荘

例年のように、白山・南竜に集まってきたのは、上の 6 名だ。自ら『精銳組』を名乗るが、平均 74 歳かな 75 歳かな、まさにオジン達だ。

別当出合から砂防新道経由で、南竜山荘に到着したときは、『ああ 疲れたな』『よく歩けたな』というのが本音のようだ。

南竜集中者 6 名はちょっと少ないね。2012 年夏(第 4 回目)では 18 名だったが。高齢化で、あきらめざるを得なかつた方もいらっしゃるからでしょうね。

白井さんの声

山登りを始めて 60 年。今回の砂防新道登りで初めてバテました。それでも、南竜へ行けたのは一緒に登ってくれた俊成さんと鍋島さんの気配りのおかげでした。そして、翌日『白井を一人で下山させるわけには行かない』と、御前峰を諦めて同行してくれた山中さんにも感謝です。

9 期 白井 勇

脚の声…『歩き通したのは俺(脚)だよ。脚に感謝してよ。同期の 9 期の奴らには感謝不要だよ。彼らもバテていたよ。急に俺(脚)を酷使するのではなく、平素からもう少し使ってちょうだい。ゴルフ場ではなく、山で使ってちょうだい。

My Wandervogel

卒業後、白山の御前峰登頂は一回しかない。体調回復に心がけて、もう一度御前峰登頂を果たしたい。

9 期 保田敦



My Wandervogel

鈴鹿セブンマウンテンへの回帰

今回の南竜 PW で体力の衰えを思い知られました。白山は諦めざるを得ません。今後は、中学・高校時代のホームグランド・故郷鈴鹿山系の山道を気ままに歩きたいと思っています。

9 期 白井勇



山で怖いのは雷かな。いや爆発かな。白山にも、こんな新しい標識が建てられていたよ。



各自 自分好みのワンデリングで白山を満喫

南竜組 2日目 昨夜決めたワンデリングを予定通り実行。

3グループとも、今晚は中宮組に合流するために下山。

- ① 合津・鍋島…展望コースのご来光を楽しみ、御前峰に登る
- ② 伊豫・伊藤…エコーライン経由で室堂へ
- ③ 白井・山中…現在の体調を考慮し立ち寄りなしで、別当出合へ。

展望コース展望台でご来光 最高だ



ご来光を仰ぎたいために、二人は午前三時起床。南竜からの急登をヘッドランプ頼りに、夜明け前から汗をかく。

太陽って偉いね。我ら二人の到着を待っていたようだ。我らが展望台に到着するや否や、すぐに顔を出したよ。お天道様はいつも見ているよ。



お花畑とハイマツ帯を縫って室堂へ



室堂で朝食

室堂に6時40分着。南竜山荘で調達した朝弁当と合津さんが準備してくれた味噌汁で、朝食だ。

新装なった白山奥宮祈祷殿で安全祈願をして、御前峰へ。

My Wandervogel

山はバスかケーブルカーで上のほうまで行けて少し歩けば頂上、というのを探して、おくさんと。

もう1つは、山村さんのお世話に甘えて、金沢でたまに飲むこと。

8期 穴田昭一



My Wandervogel

とりあえず新しい登山靴の調達を決断すること。そして、敢えて目的も目標も定めぬ気ままに心で山を想い、人を想うこと。

9期 伊藤俊成



先輩を追いかけて
54年前の冬、合津リーダのもと、大門山に行った。4年生3名、2年生2名、1年生小生1名。45kgの重い荷物を背負い、深い雪のラッセルで、鍛えていただいた。

本日、合津さんに同行させていただき、二人で白山山頂ワンデリングができる、うれしい。依然として強い気持の先輩を見ました。

気の弱い小生。今後も先輩の背中を追いかけて、山登りを継続だ。

9期 鍋島武

御前峰頂上



頂上では、眺望を楽しみ、腹ごしらえをし、奥宮で神頼み。計画達成で、何か満たされた気分で最高だ。

もしかして、今回が生涯最後の御前峰かも…。ちょっと感傷的に。去りがたい気分だ。

南竜の4名も行動開始

南竜山荘を出発した4名は南竜道のエコーライン入り口で二手に分かれる。

白井さん・山中さんはそのまま別当出合を目指して下山、一足先に中宮に集中だ。

一方の伊豫さん・伊藤さんのグループはエコーライン経由で室堂に向かった。

室堂及び南竜道分岐では想定外のKUWVOB交流会

伊豫・伊藤両氏が目的地の室堂に着いたが、そこには、想定外のうれしい出来事が。

15期の間所ご夫妻が室堂に来ていたのだ。伊豫さんの行動を予知して、出会えるだろうと思ったとのこと。お二人にとって想定



内であるが、我らにとっては想定外。

御前峰から降りてきた合津・鍋島組が加わり、KUWVOB 交流会だ。仲良しの良いご夫婦だね。



2018年8月1日 南竜道分岐（左から）間所ご夫妻 奥名さん + PW 参加者4名

更に驚いたことに、南竜道分岐まで下りてくると、15期奥名さんにも待っていていただいた。疲れ切っていた我らPW参加の4名も、疲れも忘れる時間を持たせていただいて、感謝です。奥名さんの奥様には5年前のPWで、花の解説をして

いただいた縁もあります。これまたいい夫婦です。

間所ご夫妻、奥名さんの3名から、『先輩たち、まだまだ若い。元気に歩け！』との無言の激励叱咤を受けて、我ら4名はオジサンらしく慎重に別当出合に向かった。無事に下山できましたよ。

山のピークだけがワンゲルじゃない 活動の幅を広げた中宮集中グループ

中宮組 初日 白山麓の白峰のワンデリング。

多くの白山登山者はこの白峰を通るだろう。ただそのうちの何%の登山者が白峰に立ち寄るのだろうか。おそらく数少ないであろう。我ら KUWVOB も立ち寄らず、通過するケースのほうが多い。

そこで、今回の中宮集中グループがこの白峰の良さ・魅力を探訪。

白峰はすごい。江戸時代の文化・伝統が生きている



『国選定重要伝統的建造物群保存地区』



白峰の中心部そのものが、『国選定重要伝統的建造物群保存地区』に選定されており、『白山ろく民族資料館』にも江戸時代の文化・伝統が保存されている。白山登山者はぜひ一度立ち寄ってほしい地域だ



山岸家 大庄屋



白山下山仏



織田家

My Wandervogel

南竜 PW は 2009 年から 2013 年の 5 回参加。その後は変形性関節症のため欠席。

マイワンゲルは一人旅。九州 7 県へは 9 回。下北半島と津軽半島はレンタカーで一周。文化庁の重要伝統的建造物群保存地区を今年中に 100箇所達成予定。今後も一人旅を続ける。

8 期 藤井信晴



My Wandervogel

もう六甲山すら登坂がつらくなつたが、野山歩きはまだ続けられる。兵庫植物同好会の会員であり、自然を楽しんでいる。兵庫県立博物館の客員研究員として、藪漕ぎをいとわず、ワンゲル時代にベトコンと言われたスタイルを維持しつつ、里地や里山の植物を訪ね歩こうと思っている。

8 期 黒崎史平



中宮グループ初日の晩は 8期同期会だ



初日に中宮温泉に集中してきたのは、この7名。偶然にも全員が8期の紳士淑女の面々だ。久しぶりの同期の会話も盛り上がったことでしょう。

(懇親の場に同席していない記録係が、想像で記録した内容は次の通り)

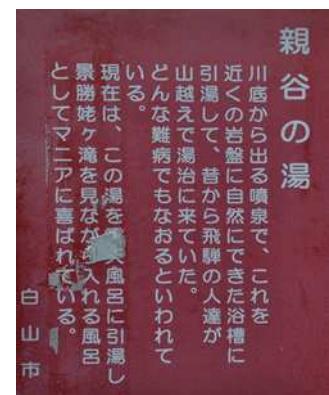
『やあやあ！元気か』『おお元気だぞ』　『最近膝を痛めてね、南竜集中はやめたよ』
 『山は高みだけを求めちゃだめよ』　『高齢ワンダラーには山のピーク以外の活動の場が…』
 『明日は蛇谷あたりを歩こうよ』
 『先日、女房を上高地に案内したよ。また立山のみくりが池もいいね』
 『今日は、何にもできない、何にもやらない、口だけの9期がいない。静かだね』
 『9期の奴らの指導のために、8期から伊豫君一人、南竜に行かせたよ』　『孫はかわいいね』
 酷暑の夏の夜、冷えたお酒がいいね。おいしいお酒で、夜遅くまで語ったことでしょう。

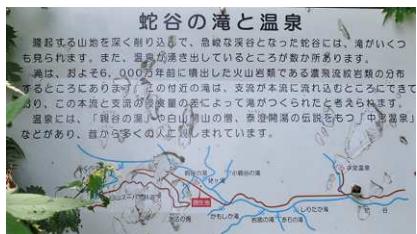
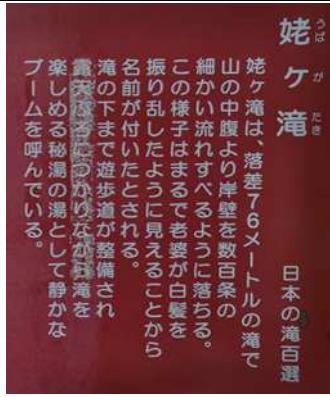
中宮グループ2日目 ドライブ&ワンデリング



中宮温泉から白山白川郷ホワイトロード(旧白山スーパー林道)を車で走る。この渓谷はワンデリングにも最適な場所満載。

俺たちのこれからワンデリングはこの形態がピタリかも。





お二人が新たに中宮組に合流

二日目に、村田さん、保田さんが中宮組に新たに合流。画像・映像を得意分野とするお二人だ。

村田さんは、一日遊び疲れたワンダラーに、お茶のお点前でおもてなし。保田さんはいつものPWのように、常時ビデオを抱えて、ワンダラーの生態をとらえる。

この茶会をはじめ、その生態が、保田さんの映像によって公開されますのでお楽しみに。

全員集合 食べる・飲む・語る 10年の白山南竜PWのフィナーレ

2泊目は、全員 15名が中宮温泉くろゆり荘に集合。山小屋ではなく温泉宿で、浴衣姿で、リラックス。

半世紀以上のつきあいの仲間うちだ。遠慮もなく、食・飲・語で、口は大忙し。フィナーレの夜はいつまでも賑やかに盛り上がっていた。



My Wandervogel

山麓の温泉に入るだけでなく、高原歩きを目指すよ。そのためには体調管理も頑張るよ。

8期 山村嘉一



(左)乾靖さん
くろゆり荘のご主人。
ナイスガイ。
穴田さんの息子さん
の友人。多方面に活躍中。
応援してあげてください。
TEL
076-256-7955



My Wandervogel

『元気だから山に登るのではない。山に登るから元気になる』

NHK 深夜便

2017年5月号

三浦雄一郎

白山南竜PW振り返れば素敵な思い出が次々と!

楽しかった南竜 PW の小屋での思い出が、次々と頭に浮かびます。南竜酒場のおしながきです。

- ・一番の楽しみは、近江町市場直送の「ドジョウの蒲焼」。大好きでした。予約でしか手に入らないらしい。
- ・強烈に視覚に残っているのはピンク色の地酒『白山フウロ』。雨でびしょ濡れになりながら花を探し、お酒に浮かべ。最高の贅沢。
- ・バテバテでゴールした南竜で迎えてくれた『赤福餅』。口の中にホイと、とたん疲れが吹き飛びました。程よい甘さがいいね。
- ・奥さまとの登山で良しということで披露された『チーズホンデュ』。スイスの山小屋に居るような気分でした。美味しかった～。
- ・山から帰ってきたとき待っていたのは『ソーメン』。東北産茗荷、ねぎの薬味を添えて。ザルは次年度の宿題でしたね。
- ・アルコールは何でもありましたね。お茶会。自家農園のキュウリ、トマト ビタミン C もしっかりとてお肌綺麗？？？
- ・デザートは『スイカ』『小松産ブドウ』。愛を感じますね。
- ・朝は『コーヒーのかおり』で目覚め、二日酔いもどこへやら。爽やかにおはよう～でしたね。
- ・最初は神々しく近寄りがたかった先輩も、最後の写真では隣に。(1頁写真参照)



忘れられないのは、PW 特別参加の笑顔の素敵な登山家谷口けいさん、8 期同期の柳川徹さん。ご冥福をお祈りいたします。

8 期 高水間淑子

My Wandervogel *登山靴をお蔵入りさせてもワンゲルは続けるよ*

高齢ワンダラーが否応なく決断を迫られる課題は『いつ登山靴をお蔵入りさせるか』
PW 最終日に、山村リーダーから『白山南竜 PW は今回限りで終了』が宣言された。『白山南竜に集まろう』という統一行動は、年齢からいって、今後は難しい。これからは各人各様の自分流のワンゲル活動に進むことになろう。

幸いにワンゲル活動は『登山靴をお蔵入り』させたとしても、その活動は終わるわけではない。自分流のワンゲル活動『My Wandervogel』が始まるのだ。

今回の PW 参加者が語る『My Wandervogel』を各ページに掲載した。

ますます元気に活躍のワンダラー

アメリカ旅行のため出遅れてしまった村田です。

旅行前の慌ただしさで何のリポートも出来ませんでしたが、駆け込みでメールを送らせていただきます。

8 月 2 日解散後、伊藤、保田、山中、村田の4名は先ずホワイトレードに入り、「ふくべの大滝」、「白山展望台」でいつも眺める白山を裏側から眺め U ターン、一路金沢に向かいました。

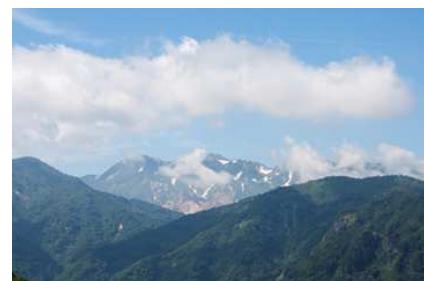
道の駅「瀬名」に立ち寄った後、手取峡谷の「綿ヶ滝」へ。駐車場から 120 段の階段を恐々降りるとそこは別天地、綿を切ったような流れの「綿ヶ滝」が優しく轟音を響かせて手取川の岸壁を流れ落ち、一陣の風とともに頬を撫でる水しぶきの心地よさ、渓谷美を堪能した後の登りの過酷なこと、せっかく引いた汗がまた噴出す始末。鶴来の「そば処さかい」で白山そばを賞味し、伊藤、保田両名と別れた村田は山中氏を金沢駅まで無事送り届け帰宅。

前日の茶会も滞りなく終了。全国茶人の垂涎の菓子処「吉はし」の幻の上生菓子「苔みどり」と米沢綠翠園の「幸の白」で一服、暑さを吹き飛ばして頂きました。されど殆どの人にこの菓子の貴重性には気づいて頂けなかったようです。

5 日後には暑い日本を脱出してアメリカはワシントン州のアナコースト、シアトルで涼しい 1 週間を満喫して私のこの暑い夏は終わりそうです。

あ、もう一つ、11 月 1 日～8 日、「東京都美術館」で「第 92 回国展受賞作家展」に出品していますので、近郊の方は散歩がてら上野の森へ足をお運び頂ければ幸いです。

7 期 村田泰恵



この殿方は昼の蝶にも好かれているよ。もうちょっと若い頃は、夜の蝶に追っかけられたのだろうな。
(8 月 2 日砂防新道にて)

白山南竜 PW をお手伝いして

9期 伊藤 俊成

7年連続7回目の白山南竜 PW の参加、どの回も鮮明な記憶を残し、終わりを告げた。

思えば、退職辞令をもらったその足で神田神保町「石井スポーツ」に赴き、登山靴とザックを購入するきっかけを作ってくれたのは、この白山南竜 PW 計画の存在であった。

あれから足掛け7年、PW 最後の今年、砂防新道の途中で登山靴のビブラム底が剥離してきたことは、店員が言った登山靴の寿命とくしくも一致することになった。これも神の定めし運命なのだろうか？

私個人にとって私をここまで頑張らせた要因は、山村先輩のお手伝い役を、9期千葉組の代表に担ぎ上げられたことに尽きたと思っている。この役目がなければ、トレーニングを怠り、私の山登りも挫折していたかもしれないと思うと、感謝の念が湧いてくる。

いつまでたっても超すことのできない先輩達、時折り顔を見せる後輩達、そして口さがない先輩から『何もしない9期』と言われつつ敢えて甘んじてきた同期の面々、ご協力いただきありがとうございました。ただただ感謝の気持ちで一杯です。

迎えてくれた白山の花々（名前はどんどん忘れますが…）、アサギマダラ、オコジョ、そして満天の星空に豪雨、ソーメンにキュウリ、白峰民宿のおばさん、まだまだいっぱいあります。

大切な思い出をありがとうございました。

以上

幹事役あってこそそのパーソンです。10 年間にわたり、お世話いただき、心から感謝申し上げます

参加者一同

編集後記：写真、文書投稿、My Wandervogel の表
明など皆さんのご協力、ありがとうございます。
その立派な資料を上手に活用できずご容赦を。
(記録担当 鍋島武 nabeshima2828@nifty.com)

KUWVOB 南竜集中 PW 第十回で終了！

2018.08.19 山村 嘉一

今を去ること10年前の2008年9月14日、金沢大学ワンダーフォーゲル部創立五十周年記念総会懇親会の二次会で話が盛り上って実現した『白山の南竜に集まろうや』というこのパーソンも、十回目を迎える前に終了することとなりました。五回目の時にそれまでお世話をした山村が『五回も続けてきたのでこれで止めたい』と言ったところ、『何とかして十回まで続けてその十回目を山村が締めるという条件で、それまでは9期千葉組がお世話をすることになり、9期千葉組を代表して伊藤俊成さんのお世話のお陰で途切れることなく、幾多の思い出を残しながら最後の十回まで続けることができました。全十回皆出席の方はもちろん、一回でも参加された方、すべての皆様のご協力に心より感謝申し上げます。お陰様で KUWVOB としてのワンダーフォーゲルらしい活動が続けられてとてもうれしい気持ちです。

ただ、個人的には最後の回の南竜ケビンに参加できなかったことが誠に残念至極です。それも日頃の自分の健康管理、体力管理のまことに努力不足によるものかと思うとみじめな気持になってしまいます。

そもそも虚弱児童で小学校入学を 2 回やっての学校生活のスタートから、どうにか人並みの健康体となり、ワンダーフォーゲルに巡り合って自分としては思った以上の活動ができたと思い、運動神経は鈍いけど、歩いたり登ったりするだけなら一生続けることができると思い込んでいました。歳を意識しながら、昨年 9 月中旬には燕岳、同じく月末には、迎えた 75 歳の元気を確かめるために白山御前峰に、ヘロヘロになりながらも登ることができました。ところが、今年の正月に発症した変形性腰椎症、脊柱管狭窄症による坐骨神経痛が完治せず、5 月 25 日の上高地、7 月 26 日の立山室堂の散策は何とか歩けたものの、南竜まではとても行けない状態となってしまいました。（お聞き苦しい愚痴話になって申し訳ないです。）

今後は少しでも良くなるように頑張るつもりです。山麓の温泉に浸かり、昔を思い出して悔しい思いを巡らせだけでなく、せめて高原歩きができるようになります。

KUWVOB の皆様！今の健康も体力もアップという間に失うリスクが日常の生活の中にあるかもしれません。どうか山村の轍を踏むことの無きよう、くれぐれもご留意されますように！！

以上



伊藤共同幹事長 合津名誉幹事長 山村共同幹事長